

はつらつ農業塾はたいへん好評です

20年8月に「はつらつ農業塾」を開校しました。農業従事者の後継者不足が原因で進む、農地の遊休化を少しでも解消しようと、JA愛知西・稲沢市と共同で始めた事業です。1農協2市の3者による事業は、全国でも珍しい形態です。農業の明るい未来のため、主に定年退職した方などを対象に、新しい農業の担い手を育成することを目指します。

両市で塾生を募集し、106人の方が入塾されました。一宮会場では、農業の担い手を育成する研修期間2年間の「担い手育成コース」に8人、作物を育て農業の楽しさを生きがいとする1年間の「生きがい農業コース」に44人、合わせて52人の方が、JA愛知西本店近くの実習畑で毎週水曜日に汗を流しています。

実習指導の講師は、有機農業に詳しく、その実践者であり普及活動も行われている農業科学総合研究所の山田一浩さん（稲沢市）にお願いしました。実習畑を土づくりから指導していただきました。塾生との軽妙

な会話で、農具の使い方、種まき、

間引き、苗の定植など農作業の基本、有効微生物を利用した堆肥作りについて実践的指導と解説がありました。

塾生が実際に農作業を行う合間にも、熱心な質疑応答がなされていました。成熟した秋冬の農作物は塾生の方

全員で収穫して持ち帰っていただきご家族の方に「大きくて立派だ」「甘くておいしい」と喜んでいただいています。実習畑の様子を近隣の農家の方たちが見て、出来栄の良さに驚かれた野菜もあるとのことでした。

収穫した野菜を使って12月に料理教室が開かれました。わたしも招かれ、昼食としていただいたメニューは、ニンジンを使ったみじご飯、ホウレン草のおひたし、サンマの大根おろし煮、一宮産ナスのはさみ揚げ、キャベツ・ニンジン・白菜・大根の浅漬けで、とてもおいしくいただきました。

実習のほかに、授業形式の講義では、野菜栽培の基礎、病害虫防除、堆肥・化学肥料のバランスがよい施

肥方法、農業経営などについて、21年1月～3月に講義が4回開催されています。

最近では春夏野菜の収穫を目指し、畝立て・種まき・苗の育成・除草・追肥・支柱立てなど栽培管理としてさまざまな農作業実習が行われています。春夏野菜の栽培実習は、秋冬にはなかった果菜類のキュウリ・トマト・ナス・カボチャをはじめ、玉ネギ・里芋・ネギ・エンドウなど、多種多様な内容となります。

開校から1年が過ぎると「生きがい農業コース」の方は修了します。一方「担い手育成コース」の方は2年目となり、自己管理による希望作物の栽培実習が始まります。全国的にも問題となっている耕作放棄地の増加に少しでも歯止めがかかるよう、新たな農業の担い手にぜひなつていただきたいと思います。

自給率の向上、安心安全な食物の確保、地産地消の推進などの話題をよく耳にします。食物の移動距離を表すフードマイルレージは、摂取する

食物による環境負荷の度合いが分かれます。これで比較すると、日本の総量は世界中で群を抜いて大きく、国民1人当たりでも1位となっています。言うまでもなく、はつらつ農業塾では地産地消です。フードマイルレージはゼロに近いものとなります。また何よりも新鮮でおいしい旬の農産物が食べられます。最近ではベランダでの手軽なプランター栽培も流行しているようです。皆様も農業を始めてみませんか。

21年度の塾生を5月に募集する予定です。農業に興味や意欲がある方の応募をお待ちしています。



熱心に解説を聴く塾生の皆さん